

宇宙旅行に関わる報道から

宇宙に関わる情報は、日々深化しております。ここに、2013年4月から2014年11月までの新聞記事の中から、転載許可を得ている記事を重要項目に分けて箇条書きで記載し、その解説文を添付いたします。

- I. 宇宙旅行計画：民間飛行機の墜落により、宇宙旅行事業を民間にまかせることに疑念が生じています(転載 1)。しかし、火星へ人を送り、将来地球化することを目指す計画も進展中です(転載 6,8,9)。大国の宇宙開発予算は大型化しております(転載 7)。
- II. ロケット開発の現状：宇宙旅行や他の星の地球化にせよ、運用するロケットの開発が必須です。着々と、各国の計画は進行しております(転載 3,4,7,14,15)。ただし、ロケットの爆発という重大事をどのように克服すべきかなど、難問もやまづみです(転載 2)。
- III. 宇宙世界の探索：一方、宇宙そのものが一体何であるのかを知ることも必須です。様々な探査機が、太陽系内と太陽系外で活躍している時代です(転載 5,10,11,12)。いずれにせよ、最大の難問、「宇宙のはじまり」への興味はつきません(転載 13)。

[転載記事項目]

1. 墜落、宇宙旅行に慎重論 米で民間試験飛行2人死傷 (朝日 2014.11.2)
2. 沢岡昭氏に聞いた：聞き手 知野恵子 10月28日、国際宇宙ステーションへ物資を運ぶ補給船を打ち上げる「アンタレス」ロケットが打ち上げに失敗して爆発。1段目が爆発したと見られる。1段目は旧ソ連製の古いエンジンを使っている。技術的な問題が起きたと見られる。31日には、商業宇宙旅行用に開発中の宇宙船「スペースシップ2」が墜落した。パイロットの操縦ミスの可能性も指摘されている。だが、何度も計画を遅らせているため、『もうこれ以上は許されない』という焦りもあったように見える。ロケットや宇宙船の開発はそう甘いものではない、ということだ。(読売 2014.11.5)
3. 新型の固体燃料ロケット「イプシロン」の打ち上げが成功。(毎日 2013.9.15)
4. 社説 宇宙近づける「革新」(毎日 2013.9.15)
5. 小惑星探査機「はやぶさ2」 目的地の小惑星は「1999JU3」 はやぶさ2の特徴 イオンエンジンを改良し、推進力を増強 探査用の小型ロボット搭

- 載 地中の岩石採取するため、「衝突装置」で人工のクレーターを作る。 岩石を確実に採取できるように改良した円筒形装置（読売 2014.9.1）
6. あと 20 年で火星移住 月面着陸のオールドリン氏提唱 「未知の開拓は人類の本能」（朝日 2013.6.20）
 7. 宇宙開発の大国 米国 ロシア 中国 日本 インド 運用中の人工衛星の数 最近 10 年間のロケット打ち上げ回数 宇宙予算 国際宇宙ステーション 米、有人火星探査目指す（読売 2013.12.11）
 8. 文部科学省は 国際協力による火星への有人探査を目標に掲げる案をまとめた。 米国が 30 年代の実現を目指して、次世代宇宙船「オリオン」の開発を進めている。（読売 2014.5.31）
 9. 「火星に人」現実味は 民間では移住構想も 密室 520 日、睡眠増加 放射線の影響懸念。（朝日 2013.4.25）
 10. 地球発 35 年 ボイジャー太陽系脱出（朝日 2013.9.13）
 11. ボイジャー搭載のレコード 宇宙への伝言「バッハで」（朝日 2013.9.13）
 12. 米航宇宙局（NASA）は 1号が 人工物として初めて太陽圏を離れて、「星間空間」と呼ばれる領域に入ったと発表。 逆算すると、太陽圏を離れたのは 2012 年 8 月 25 日ごろと推測 星間空間は恒星と恒星の間の宇宙空間で、水素などのガスやわずかな微粒子が存在 電池の寿命が尽きる 2020 年ごろまでは データを地球に送信できると予測されている。 地球外生命体に遭遇した場合に備えて、日本語を含む人類の言語や音楽を届けるレロード盤（ゴールデンレコード）を積んでいる。 2号も近く太陽圏を出ると見られている。（読売 2013.9.13）
 13. 見えた宇宙の始まり 産生？期待渦巻く原始重力波（朝日 2014.4.21）
 14. 揺らぐ宇宙産業 基盤強化へ 衛星・ロケット長期計画検討 政権の安保重視 背景 JAXA と協力 防衛省、赤外線センサー開発に力 「探査や研究とのバランスを」（朝日 2014.10.30）
 15. 防衛省は 「宇宙ゴミ」を監視したり、対衛星兵器の正確な動きを把握したりするため、専従組織の設置を検討する。 戦闘機や輸送機で空中から発射し、情報収集などに使う 「即応力小型衛星」の研究も始める。（読売 2014.8.29）